

# 市原市稲荷神社三山塚

－特別工業地区岩崎土地区画整理事業埋蔵文化財調査報告書－



平成14年3月

千葉県都市部  
財団法人 千葉県文化財センター

## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第438集として特別工業地区岩崎土地区画整理事業に伴って実施した稲荷神社三山塚の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、近世供養塚の信仰形態の一端を解明するなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成14年3月25日

財団法人千葉県文化財センター  
理事長 清水 新次

## 本文目次

## 挿図・表・図版目次

I はじめに	2	第1図	稲荷神社三山塚の位置と周辺の塚	3
1 調査の経緯と経過	2	第2図	塚周辺地形図	6
2 調査の方法	2	第3図	塚全体図	7
3 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第4図	トレンチ土層断面図	8
II 検出した遺構と遺物	5	第5図	塚頂上石碑立面図	10
1 概要	5	第6図	大日如来型供養碑拓影図	10
2 遺構	5	第7図	出土遺物	11
3 遺物	9	第1表	岩崎地区周辺塚一覧表	4
III まとめ	12	図版1	調査内容	
報告書抄録		図版2	出土遺物	

## 凡 例

- 1 本書は、千葉県都市部による特別工業地区岩崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県市原市岩崎字宮前750番地ほかに所在する稲荷神社三山塚（遺跡コード219-082）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県都市部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業は、南部調査事務所長 高田 博の指導のもと、下記の職員が実施した。  
発掘調査 平成13年9月1日～平成13年9月18日 研究員 行川 永  
整理作業 平成13年9月19日～平成13年9月30日 研究員 行川 永
- 5 本書の編集・執筆は、研究員 行川 永が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関、諸氏の御指導・御協力を頂き、ここに深く感謝の意を表します。（敬称略）  
千葉県都市部市原区画整理事務所、千葉県教育庁生涯学習部文化課、市原市教育委員会、財団法人市原市文化財センター、齋賀勝夫、中村利生、井村正之、鎗田衛一
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。  
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「五井（NI-54-19-15-4）」「姉崎（NI-54-19-16-3）」  
第2図 市原市発行 市原市基本図C-4（1/2,500）
- 8 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

# I はじめに

## 1 調査の経緯と経過

千葉県都市部は、当地域の土地区画整理を目的に、特別工業地区岩崎土地区画整理事業を計画した。当該事業地内には埋蔵文化財が所在することから、その取扱いについて関係諸機関と協議した結果、記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施する運びとなった。

稲荷神社三山塚については、平成13年9月1日から9月18日にわたって発掘調査が実施され、調査終了後に引き続き整理作業が行われた。発掘調査では、塚の盛土以外の遺構は検出されず、古墳の転用ではないことが判明した。遺物は塚の盛土部分から土器、銭貨、盛土周辺から近世陶磁器などが出土した。

## 2 調査の方法

最初、調査着手前の写真撮影、塚及び周辺の地形測量を行い、次に塚盛土を中心に任意のトレンチを設定し、盛土の構築状況や周囲の遺構の確認を行った。塚は調査終了後も暫くは現況をとどめる計画であったため、調査は部分的に三段の土留めに囲まれていた塚正面部の二段目土留め外側から実施し、トレンチの断面実測・写真撮影の後、塚盛土の復元も含めた埋め戻し作業をもって終了した。

なお、塚背面部は駐車場の舗装が施されていたため調査は行わなかった。また、調査区は標高が2.0m弱と低位であること、かつ、盛土及び周囲の自然堆積層が砂質土を中心に形成されていたため終始、トレンチ内の湧水や雨水によるトレンチ壁面の崩落に留意しながら調査を実施した。

座標については基準杭を利用して、国家座標系に基づく位置を確認した。

## 3 遺跡の位置と周辺の遺跡（第1図）

千葉県のほぼ中央に位置する市原市の地形は、南部の丘陵地、北部の洪積台地、養老川的作用による沖積平野に大別される。養老川は清澄山に源を発し、流路延長75km、流域面積245.9kmを測り、市原市をほぼ東西に分けるように北流し、東京湾に注いでいる。

稲荷神社三山塚は、市原市岩崎字宮前750番地ほかに所在する。東京湾に隣接した養老川河口付近の左岸に位置し、地形上は養老川の洪水時に運ばれた砂などが堆積した微高地である自然堤防上にある。付近は、養老川の流路の変遷を伺わせる旧河道、三角州、類水地形（高水敷）、また、埋立地などの人工地形が複雑に入り組んだ様相を呈している。今日では海岸線には工場群が林立し海の影響は殆ど考えられないが、それ以前については津波等の被害を受けるなど自然環境の変化に大きく左右されていた地域であることが推測できる。

周辺遺跡では、千葉県教育委員会発行の遺跡分布地図<sup>1)</sup>によれば、岩崎地区内に、巖島神社供養塚（2）、原太稲荷塚<sup>3)</sup>（3）があり、原太稲荷塚からは近世陶磁器片・管状土錘・古銭数点・瓦多数が検出されている。その他、近隣地域には第1表にまとめたように塚が数多く点在しており、かつて本地域に山岳信仰を母体とする民間信仰が深く根付いていたことを証明している。しかし、(財)市原市文化財センターによって調査が行われた原太稲荷塚や青柳塚群<sup>15)</sup> 以外は調査例が極めて希薄であるというのが実状である。



第1図 稲荷神社三山塚の位置と周辺の塚

第1表 岩崎地区周辺塚一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	立地・現状
1	稲荷神社三山塚	市原市岩崎字宮前	三山塚(方形) 5.0m×2.0m	微高地・神社境内
2	巖島神社供養塚	市原市岩崎字弁天橋	塚(円形) 3.0m×1.0m	微高地・神社境内
3	原太稲荷塚	市原市岩崎字川幅	塚(方形) 17.5m×1.8m 近世陶磁器、管状土鍾 寛永通宝	微高地・水田
4	波瀾三山塚	市原市五井字新田	三山塚(方形) 12.0m×2.3m	微高地・荒地
5	若宮八幡神社供養塚	市原市五井字梨の木	円形塚5.0m×1.5m	微高地・神社境内
6	大宮神社浅間塚	市原市五井字宮前	円形塚8.0m×2.5m	微高地・神社境内
7	五井中瀬三山塚	市原市五井字中瀬	三山塚(方形) 18.0m×3.5m	微高地・墓地
8	岩野見三山塚	市原市岩野見字仲町	三山塚(方形) 15.0m×1.5m	微高地・墓地
9	平田三山塚	市原市平田字京塚	三山塚(方形) 10.0m×2.5m	微高地・墓地
10	飯沼三山塚	市原市飯沼字上崎	三山塚19.0m×1.5m	微高地・宅地
11	島野三山塚	市原市島野字飯沼境	三山塚(方形) 13.0m×1.5m	微高地・畑
12	島穴神社三山塚	市原市島野字島穴	三山塚(方形) 6.0m×1.0m	微高地・神社境内
13	島穴浅間塚	市原市島野字島穴	浅間塚10.0m×2.5m	微高地・神社境内
14	青柳三山塚	市原市青柳字宮田	三山塚(方形) 24.0m×3.0m	低地・墓地
15	青柳塚群	市原市青柳字外輪戸	塚13, 10.0m~20.0m×3.0m~5.0m	微高地・水田
16	今津朝山三山塚	市原市今津朝山字老町目	三山塚(方形) 10.0m×2.0m	微高地・墓地
17	白塚三山塚	市原市白塚字白塚台	三山塚(方形) 15.0m×3.0m	微高地・畑
18	白塚旧供養塚	市原市白塚字白塚台	三山塚(方形) 13.0m×2.5m	微高地・畑
19	白塚浅間塚	市原市白塚字一町目	円形12.0m×3.5m	微高地・神社境内
20	柏原浅間塚	市原市柏原字宮廻り	浅間塚7.0m×1.5m	微高地・神社境内
21	中谷富士塚	市原市海保字東中谷	富士塚(方形) 8.5m×1.5m	微高地・神社境内
22	廿五里新聞三山塚	市原市廿五里字新聞	三山塚(方形) 9.0m×1.5m	微高地・畑
23	廿五里八幡台塚 (三山塚)	市原市廿五里字八幡台	三山塚(方形) 10.0m×1.5m	微高地・畑
24	佐敷戸塚	市原市今富字佐敷戸	円形8.5m×1.5m	微高地・水田
25	十五沢前田塚	市原市西野字前田	円形10.0m×2.0m	微高地・水田
26	十五沢上人塚	市原市十五沢字高沢	円形13.0m×2.5m	微高地・畑
27	花やしき塚供養塚	市原市十五沢字高沢	方形29.0m×2.6m	微高地・畑
28	小折三山塚	市原市西野字小折	三山塚(方形) 8.0m×1.5m	微高地・水田

注1 財団法人千葉県文化財センター 1999 『千葉県埋蔵文化財分布地図(3) - 千葉市・市原市・長生地区(改訂版) - 』

2 忍澤成視 1996 『市原市文化財センター年報(平成四年度)』 財団法人市原市文化財センター

3 高橋康男 1990 『青柳塚群』 財団法人市原市文化財センター

## II 検出した遺構と遺物

### 1 概要

先にも述べたように、今回の調査では塚の盛土以外には遺構は検出できなかった。その要因としては塚周辺が墓地として利用されていたことで広範囲にわたり自然堆積層が攪乱されていたこと。また、前述の遺跡分布地図によれば、岩崎地区周辺には18世紀前半の新田開発により人口の流入が図られる以前の周知の遺跡が殆ど見られないことから、近世以前には集落が営まれていなかった可能性が考えられる。

遺物については盛土から土器、銭貨、盛土周囲からは土器、近世陶磁器、銭貨、瓦片を検出した。

### 2 遺構（第2～6図、図版1）

塚周囲の土地利用であるが、塚前面部は墓地として利用されていたが現在は荒蕪地となっている。塚正面をみて右側は手前が建築資材置場、奥が道路に面した商店の駐車場で、駐車場はそのまま塚背面部に至っている。また、背面部については駐車場を挟んで明治以後に開通した県道が南北方向に通っている。塚正面をみて左側奥は、県道と荒蕪地を分けるように篠竹の林となっている。

塚の盛土と塚背面部に接する駐車場との標高差は約80cmで、背面部から見た盛土は若干の高まりを感じさせる程度である。駐車場地権者の教示によれば、約40年前に塚と市道に挟まれた窪地に現在の駐車場を建設した際、塚背面の斜面に付けるように盛土をしたため現在のような地形になったとのことであった。

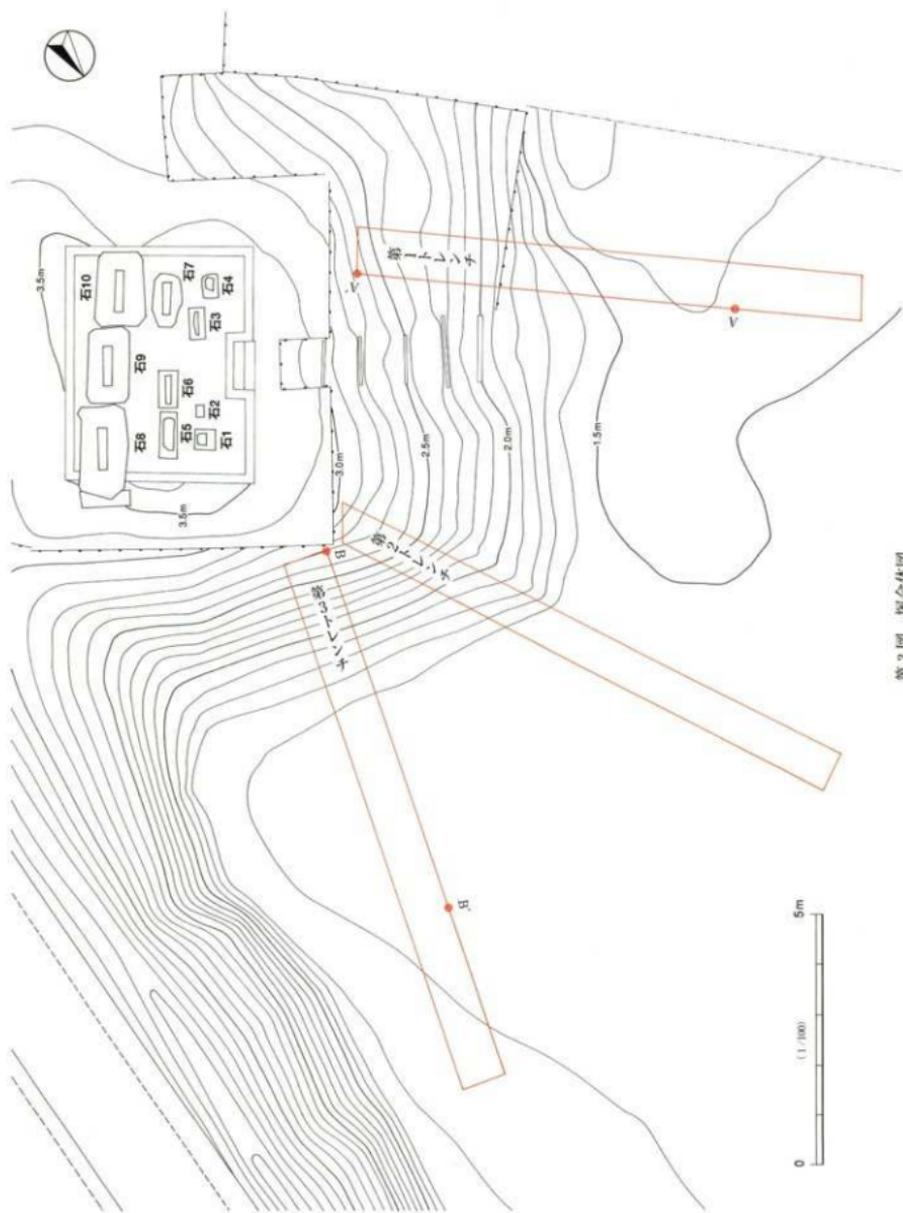
塚本体の現況は土留めを施した三段築成で、頂上部と二段目は平坦面、三段目はやや急勾配の傾斜面となっている。土留めは、頂上部の一段目は大谷石を使用し、東西3.7m、南北4.7mの長方形を呈し、完全に盛土を囲むように造られている。二段目の土留めはコンクリートを用い、塚の正面部から両側面をコの字形に囲むように造られ、背面部には植栽が施されているのみで土留めは施されていない。三段目の土留めもコンクリートで造られ、塚正面の階段を境に右側正面及び側面をL字型に囲むものであった。なお、地域住民の教示によれば、これら三重の土留めと植栽は昭和52年に出羽三山登拝を行った行人を中心に同年、施工されたもので、土留めを施す以前の塚は半球状の土饅頭形をしていたとのことである。そして、工事の際、土留め一段目と二段目の盛土を削平して現在の塚の形状に至ったそうである。また、後述する石碑についても昭和52年の改変時に塚頂上に建てられていたものを移動し、現在の規則正しい配置に置き換えたとのことである。

従って、塚前面平坦面から高さ3.0mの三段築成を成す現在の塚は、少なくとも約40年前の駐車場の盛土及び、昭和52年の塚盛土削平という二度の改変を受けていることになる。

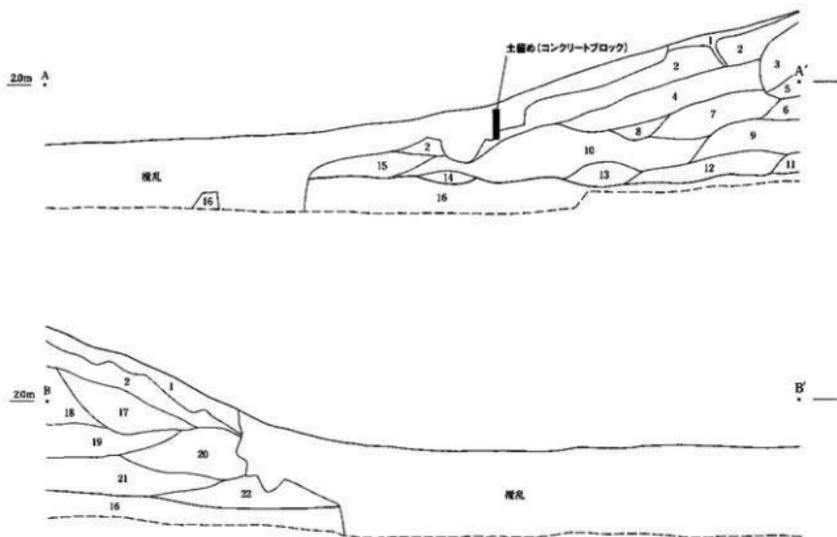
塚の構築については、二段目盛土外側のトレンチ断面観察のみによるものであるが、灰黄褐色の砂質土の基盤層（16層）上に、ぶい黄褐色・明黄褐色・灰褐色・灰白色・黒褐色砂質土が約1.6m積み上げられている。基盤層から高さ約50cmまでの盛土は含水が良く、しっとりとしており、表面の約5cm～20cmは表土化していた。旧表土については、第1トレンチの基盤層直上に黒褐色砂質土層（11層）が確認されたが、その他のトレンチ断面からは同一層が検出されなかったため、旧表土とは断定し難い。また、前述のとおり、塚の周囲は墓地の攪乱が激しく、盛土が盛られた範囲を確認することはできなかった。なお、第4図の断面図で同一層と思われるものについては、同一番号を記載してある。

頂上部には10基の石碑が規則的に建てられてる（第5図）。1の供養碑は、高さ58cm×幅28cm×厚さ20cm





第3圖 塚全体圖



第4図 トレンチ土層断面図

1. 黒褐色土	表土	12. にぶい黄褐色土	9層よりしまり良い
2. にぶい黄褐色土		13. 褐色土	
3. *	2層より明るい	14. 明黄褐色土	5層より明るい
4. *	2層より明るく, 3層より暗い	15. 灰褐色土	
5. 明黄褐色土		16. 灰黄褐色土	地山
6. *	5層より暗い	17. 灰白色土	
7. にぶい黄褐色土	4層よりしまり良い	18. にぶい黄褐色土	しまり大変良い
8. *	7層より明るい	19. *	18層よりやや暗い
9. *	7層よりややしまり良い	20. 灰白色土	17層よりしまり良い
10. *	2層よりしまり良く, 7層より暗い	21. 褐色土	
11. 黒褐色土	1層より暗い	22. *	含水多くしまり悪い

の舟形光背を持つ金剛界大日如来像である。その姿は、頭に宝冠を着け、肩には条帛をまとい、<sup>ひざ</sup> 膝坐し、手印は金剛界大日を表す智拳印をとっている。碑文は正面に「安永四乙未年/十月吉日」(1775)、右側面に「天保三壬辰年十月吉日(再)建」(1832)と記されている。台座は高さ12.5cm×幅40cm×奥行41cmで上面前部の左右に立花が穿たれている(第6図)。2は無銘で石材のみ置かれている。3は正面に「三山神社」と記された大正2年建立のもの、4は中央に「三山」と記された明治7年建立のものである。5は明治34年建立、6は昭和10年建立、9は昭和52年建立のもので、全て中央に「月山神社」、左に「湯殿山神社」、右に「羽黒山神社」と記されている。7は中央に一段高く「月山」、間をあけて下段に「神社」、左に「湯殿山」、右に「羽黒山」と記された昭和32年建立のもの。8は中央に「月山大神登拝記念碑」、左に「湯殿山大神」、右に「羽黒山大神」と記された平成7年建立のもの。10は中央に「月山三山参拝梵天供養碑」、左に「湯殿山」、右に「羽黒山」と記された平成元年建立のものである。

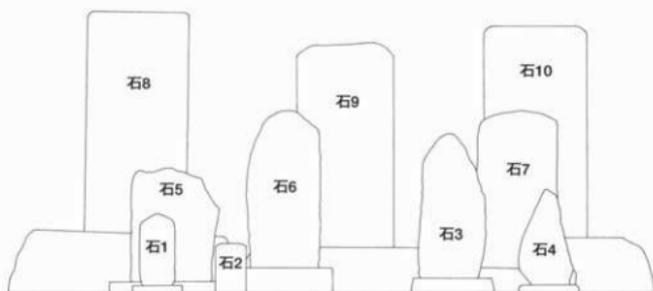
### 3 遺物(第7図)

今回の調査で出土した遺物は、土器、近世陶磁器、銭貨と瓦片である。陶磁器は、図示可能なものは全て墓地跡地の攪乱層から出土している。1は志野釉の灯明皿で17世紀後半から18世紀前半のもの、2は錆釉の丸碗で18世紀末のもの、3は透明釉の馬目大皿の口縁部で18世紀末から19世紀前半のもの、4も錆釉の灯明受け皿で19世紀前半のもの、5は灰釉の片口鉢で19世紀前半のもの(以上1から5は瀬戸・美濃産)である。6は19世紀前半の肥前産の染付六角鉢で、焼継ぎによる接合痕が認められる。焼継ぎは、碗・鉢・蓋などの日用品の磁器に顕著に認められる鉛ガラスを用いた補修・接着方法で、京都あるいは関西方面で始まったものが寛政二年(1790)前後に江戸に伝わったとされている<sup>1)</sup>。7は生産地・時期不明の徳利であるが表面に「山」に「二」の字の釘書きがみられる。上述した焼継ぎと釘書きは江戸などの比較的都市部の出土資料中に見られるものであり、岩崎は江戸時代後期には都市化が進んでいたであろう。

銭貨のうち、第1トレンチ盛土部出土の9～11の寛永通宝は、鑄造が18世紀後半のもので、表上下約40cmのはほぼ同一地点から検出されており、供養の際に塚に供えられたか、埋められた可能性が考えられる。

また、第2トレンチの盛土層と第3トレンチの攪乱層から焙烙の口縁部と思われる土器片が出土している。その他、時期不明の瓦片十数点が出土したが、これらは墓地内にあった地元守永寺末寺、大見堂が3年前の墓地移転時にとり壊された際に廃棄されたものと思われる。

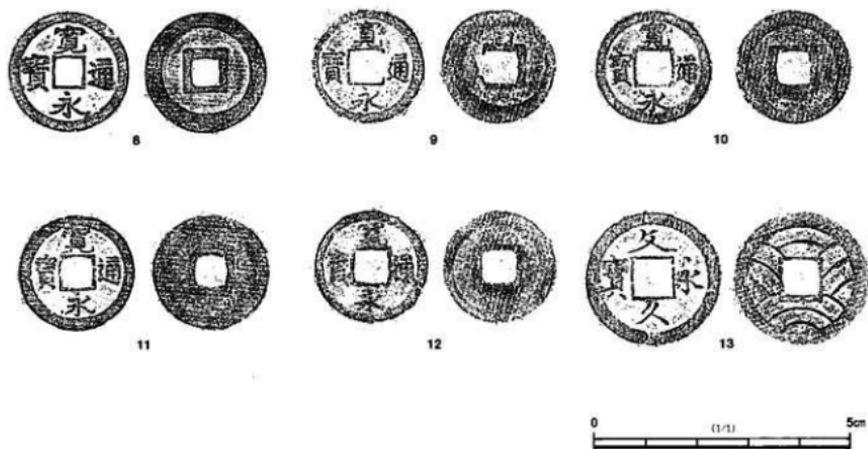
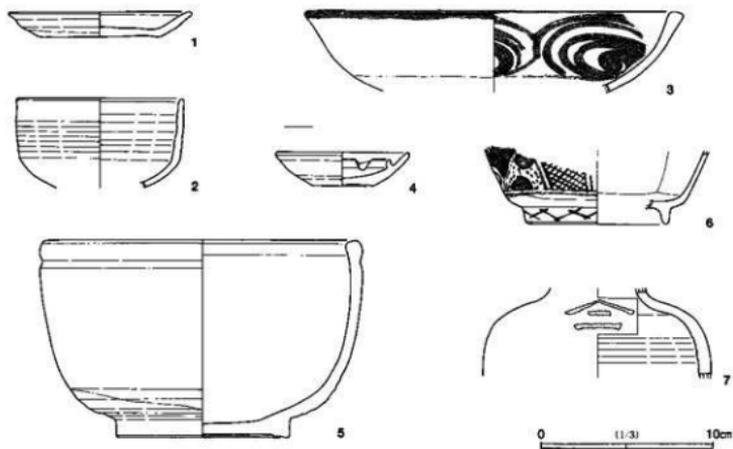
注1 鳴田浩司 1994 「房総考古学ライブラリー8 歴史時代(2)」財団法人千葉県文化財センター



第5圖 塚頂上石碑立面圖 (1/40)



第6圖 大日如來型供養碑拓影圖 (1/3)



第7図 出土遺物

### Ⅲ まとめ

今回の調査では、塚本来の規模・形態を正確に把握することはできなかった。しかし、塚が構築された目的を考察してみると、頂上部に置かれた石碑で無銘のものを除いた9基が出羽三山供養に関するものであったことから、この塚が出羽三山信仰を背景に造られたものであることは間違いない。

塚構築の時期は、塚盛十から出土した寛永通宝と大日如来供養碑に刻まれた「安永四乙未年」(1775)、「天保三千辰年」(1832)の年号から推測すると18世紀後半から19世紀前半頃と思われるが、構築年代をより明確に示す遺物や文献資料が存在しないことから、その時期については推測の域を脱し得ない。

ただ、正伝坊の檀那場行人宿泊状況<sup>1)</sup>によれば、寛保元年(1741)に岩崎新田から14名の宿泊があったとの記録が残されており、塚の構築とは別に、既にこの時期に出羽三山信仰が岩崎の民衆の間に広まっていたと考えられる。

三山塚の位置する岩崎地区は、享保13年(1728)に清兵衛新田と称して開発が始められ、享保15年(1730)に岩崎新田と改められている<sup>2)</sup>。市内最古の三山供養塚石塔は、先述の青柳塚群にある寛永7年(1630)のものであるが、岩崎地区の三山塚は、近隣地域において芽吹いていた三山信仰が新田開発で同地区に移り住んできた人々の間に広まっていったことを証明する所産といえる。

岩崎地区では、平成7年の三山登拝を最後に登拝記録は残されておらず、講組織の存在も確認できなかった。現在、三山塚の管理については、行人がボランティアとして盆前の草刈りなどを行っているが、かつて同地区の先人たちが培った信仰心が、末永く生き続けていくことの難しさを窺うことができる。

注1 市原市教育委員会 1986 『市原市史(中巻)』

2 五井町教育委員会 1963 『五井町歴史年表』



塚全景 (北西より)



大日如来型供養碑



塚近景 (南東より)



第1トレンチ北壁断面



第2トレンチ北壁断面



第3トレンチ (北東より)



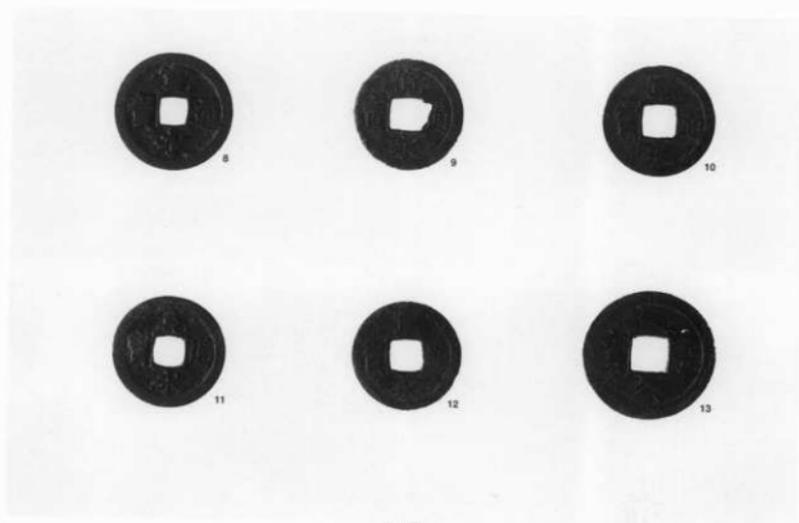
調査状況 (北より)



厳島神社供養塚



陶磁器



銭貨

## 報告書抄録

ふりがな	いなりじんじゃさんやまづか							
書名	稲荷神社三山塚							
副書名	特別工業地区岩崎土地区画整理事業埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第438集							
編著者名	行川 永							
編集機関	財団法人千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2				TEL 043-422-8811			
発行年月日	西暦 2002年 3月25日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三山塚	千葉県 市原市岩崎 字宮前750 ほか	12219	082	35度 31分 22秒	140度 04分 52秒	20010901～ 20010918	(塚1基) 200㎡	特別工業地区 岩崎土地区画 整理事業に伴 う埋蔵文化財 調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
三山塚	荒蕪地	近世	塚1基	土器, 近世陶磁器, 銭貨, 瓦片				

千葉県文化財センター調査報告第438集

### 市原市稲荷神社三山塚

- 特別工業地区岩崎土地区画整理事業埋蔵文化財調査報告書 -

平成14年 3月25日発行

編 集	財団法人 千葉県文化財センター
発 行	千 葉 県 都 市 部 千葉県中央区市場町1-1
	財団法人 千葉県文化財センター 四街道市鹿渡809-2
印 刷	株式会社 正 文 社 千葉県中央区都町1-10-6